

読書へのいざない

朝来市立東河小学校 北垣 由美

1 はじめに

本校は緑豊かな山間に位置する、全校児童110名の小規模校である。明治4年に「発盲館」と称して稲津五左衛門宅（民家）を校舎に設立され、今年で146年目を迎える歴史と伝統ある学校である。校区内の宅地開発に伴い、若い世代を中心とした核家族家庭が多くなっているものの、農村のよさを濃く残している。地域をあげて学校に協力的であり関心も高い。

平成27年夏休みに蔵書のデータベース化に取り組み、蔵書管理・図書の貸出・返却がパソコンで行える環境が整い、一段と学校図書館が使いやすくなった。しかし、子どもたち、特に高学年になると「本を読むことは大切である。」と認識しているにもかかわらず、本を読まない児童の割合が高くなっている。本に親しみ、心豊かな児童に育ってくださることを願い、次のような取組を行っている。

2 具体的な取組み

(1) 読書タイムの設定

- ・朝読書 毎週木曜日 8時20分～30分（教師も児童と共に読書）
- ・給食の待ち時間、課題を終えた隙間時間



(2) 読書ボランティア「おはなしの木」（地域のボランティア）

- ・毎週月曜日 昼休み 絵本中心に読み聞かせ（希望者のみ参加）
- ・第1木曜日 学級への読み聞かせ

平成27年度より、読書ボランティアの方と相談し、学校図書館にある図書を中心に学級毎に読み聞かせをしてもらうことにしている。

- ・おはなしの森

1学期 低中高に分かれ、希望の読み聞かせ。

（ボランティアの方が、低中高各2～3冊の図書を選び、アンケートをとる。）

2学期 全校生対象の読み聞かせ

(3) 図書委員会の活動

- ・図書の貸出・返却の業務（20分休み・昼休み）
- ・出前読書；各学年の教室に行き、読み聞かせをする
- ・新刊本の紹介
- ・読書がんばり賞



図書委員による出前読書

①委員会活動中に図書を借りた児童のスタンプカードに印をおし、たくさん読んだ児童に『手作りの葉』をプレゼントする。

②がんばり賞（1・2学期）・読書大賞（年間） 全校集会で表彰

がんばり賞	低学年 30冊	中学年 25冊	高学年 15冊
読書大賞	低中学年 100冊以上	高学年 50冊以上	

- ・図書委員おすすめの本 20冊／月

毎月の委員会活動時に、20冊の本を入れ替える。

(4) 教師による読み聞かせ（年1回）

全職員が低中高別に読み聞かせする本を決め、アンケートをとり、読み聞かせを行う。

(5) 紙芝居「小山弥兵衛と心諒尼物語」

江戸時代に東河地区出身の小山弥兵衛が長崎県壱岐に島流しになり、壱岐の人々の生活向上に尽くしたことが縁で、平成19年に長崎県壱岐市の箱崎小学校との交流が始まった。毎年秋には箱崎小学校から子どもたちが来校し5年生を中心に交流している。交流前には、市（和田山地域振興課）と読書ボランティアの協力で、4～6年生対象に『紙芝居「小山弥兵衛と心諒尼物語」』を聞く機会を設けると共に、関係した絵本を子どもたちに紹介している。



おすすめの本 20冊準備中

・低学年向けの紙芝居

交流が5年生中心であり、紙芝居「小山弥兵衛と心諒尼物語」を聞くのも4～6年生対象のため、低学年にも壱岐との交流をわかりやすく伝えようと、平成28年度の6年生が総合学習で【東河と壱岐・箱崎の絆を伝えよう】と紙芝居作りに取り組んだ。紙芝居作りに当たって、学校図書の「おじいさんをたずねて」・「遙かなる壱岐」を調べ、地域の人にインタビューしたり、インターネットで検索し、低学年にもわかりやすい言葉・内容で話を再構成し、全校生に発表した。(平成29年度以降は、6年生が1～3年生に紙芝居を実施する予定。)



(6) 国語科の学習と関連付けて：並行読書コーナー・発表の場の設定

学校図書館だけでは関連する図書・図鑑が足りないため、市立図書館に協力してもらい、その都度学習に関連する図書を借り、いつでも手に取り読める環境をつくっている。

- ・1年生 教材「うみの かくれんぼ」→リーフレットを作り、クイズ大会をしよう！
- ・2年生 教材「スイミー」→レオ＝レオニさんの絵本の音読劇で紹介しよう！
- ・3年生 教材「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつ教えます」→食べ物のひみつブック！
- ・4年生 教材「ごんぎつね」→リーフレットを作って紹介しよう！
- ・5年生 教材「千年の釘にいどむ」→ポップを書こう！
- ・6年生 教材「やまなし」「イーハトーヴの夢」→おすすめの作品を読書ポスターで推薦しよう！

3 成果と課題

- ・読書タイムの設定により、引き出しやロッカーの中に必ず1冊の図書を置いておくようになり、給食の待ち時間・隙間時間など読書する姿が定着してきた。
- ・蔵書がデータベース化したことで、貸出・返却・整理がしやすくなった。毎月、図書委員会おすすめの20冊を入れ替えできるだけでなく、担任とクラスの児童で相談し、自分たちが読みたい図書を20冊は借りることが出来、いつも手に取れる場所に本があるようになった。反面、図書室で借りなくても、教室の本で満足してしまい、図書室の貸出を利用しない児童もいる。また、データベース化になり作業が効率化されたものの、司書教諭がいないので担任・他の校務分掌を持ちながら図書館の環境を整備するのは厳しいものがある。
- ・読書ボランティアの読み聞かせにより、今まで知らなかった図書・作者の本に興味を持つことが出来た。高学年になっても「読み聞かせ」の時間を楽しみにしており、「王さまライオンのケーキ」では、数の仕組みに気付き、気付いたことで一段とストーリー展開に面白みが増したようであった。
- ・国語の学習と関連付け、並行読書コーナーを設けることで、読書の目的が明確になり、普段は読まないジャンルの本にも触れ、様々な本を読む機会が増えた。

4 おわりに

学校図書館の環境を充実させるだけでなく、児童が本に出会う機会を必然的に作ったり、読んで楽しかった・よかった経験をさせたりすることも大切であると考え。 (やり過ぎると読書嫌いになる可能性もあるかもしれませんが。) そのための仕掛けとして、

- ①新刊図書としてシリーズ本も購入し紹介し興味を持たせる。
- ②読書ボランティアの方の協力を得て、学校図書館の読み聞かせ(紹介)をしてもらう。
- ③学習と関連づけて様々なジャンルの図書に触れる機会を作る。(読書の時間も確保する。)
- ④図書を活用した活動の場のゴールを、紹介・発表の場などとし、人から認めてもらえる場を設定し、達成感・自己肯定感を高める。 など

の活動に本校では取り組んでいる。しかし、学習で活用できる学校図書館の蔵書が少なかったり、どんな蔵書があるかを十分に把握していなかったりする面もあるので、様々なジャンルの本に児童が出会え、豊かな心を育めるよう、今後も学校図書館の充実・読書活動の充実に取り組んでいきたい。

読書活動の基地としての学校図書館

養父市立八鹿小学校 西村 宏太

1 はじめに

本校は、全校生275名の中規模校である。平成24年に小佐小学校と統合し、統合時1年生だった児童が現在6年生となった。「亦透（またとおる）」（前向きな心で努力しできるようになる）を校訓に教育活動を進めている。

平成27年夏に学校図書館の蔵書をコンピュータによる管理にし、バーコードリーダーで貸出することにより業務も簡素化した。地域の方もとても協力的で、たくさんの方が図書ボランティアに登録され、読み聞かせだけでなく掲示物、図書整理にも熱心に協力していただけている。学校では、各学年に100冊程度学年の本として一括貸し出しをし、各学年の廊下または教室に置くことで、読書が身近なものになってきた。しかし、その反面学年が上がるにつれ図書室へ来る児童が減る傾向があり、どの子にとっても魅力がある図書環境づくりを思案しながら取組を続けてきている。

2 具体的な取組

(1) 読書活動時間の設定

①読書タイム

毎週月・水・木・金曜日 8:15～8:25。

学級文庫の本や図書室の本を読む。

②お話広場

低・中・高学年と順番に図書ボランティアさんによる読み聞かせ。水曜日の朝の読書タイムを利用。3週間に1回程度。各クラスにボランティアさん1名。

③お話レストラン

学期に1回。13:15～13:40。図書ボランティア・学校教職員による読み聞かせ。児童は事前にメニュー（書名と簡単な説明文）を見て、興味のある本の読み聞かせ会場に行く。



(2) 養父市全校の取組

①おすすめ20冊の選定

養父市の図書館担当で各学年20冊ずつ読んでほしい本「おすすめ20冊」を選定し、学年ごとに、20冊読破に取り組む。

②そうあんくんの日

毎月第2・4水曜日を養父市「そうあんくんの日」とし、市内全小・中学校はノーメディア運動（ノーテレビ・ノーゲーム）を家庭で実践。本校では、その日は読書・自主学习・お手伝いに挑戦することを推奨している。



(3) 図書委員会の取組 … 毎日20分休み・昼休みの図書室の開放・貸し出し

①ティーンズお話広場

図書委員会が選んだ図書室の本を図書委員会の児童が読み聞かせをする。

②本探しの旅

図書委員会が選んだ図書室の本を、図書室の棚から探して読み、その感想を用紙に書いてポストに投稿する。



③オススメポスター

おすすめ20冊など、読んでほしい本のポスターを校内に掲示。

④はっちゃけタイムでの本の紹介

はっちゃけタイム（全校縦割りあそびの時間）で委員会からの本の紹介

(4) 図書ボランティアの協力

本年度は23名のボランティア登録。「お話広場」「お話レストラン」の読み聞かせ活動の他に、図書室の壁面製作、図書整理をしていただく。図書整理は、長期休暇中に全ての本を棚から出し、補修までしていただけて、よりよい図書室環境ができています。



(5) その他

- ・読書の旅カード（読書記録）
- ・そうあんくんの日とリンクして、学校の本を必ず1冊読む取組。
- ・おすすめ20冊の取組状況の掲示

3 おわりに

長年にわたり、朝の読書タイム、ボランティアによる読み聞かせ、お話レストランなどの活動を通して、読書活動が進められてきているので、学校全体が読書に適した環境になってきた。また、市統一の「そうあんくんの日」の取組によって、家庭での読書週間の定着も進みつつある。しかし、まだまだ読書活動の基地としての学校図書館として活用されるための工夫が必要であると感じる。今後は、子どもたちにとって居心地の良い、様々な本に出あうことができる学校図書館にするために、様々な活動を学校全体、地域の方と協力しながら進めていきたい。



